

水難事故のあらまし

～平成30年中の水難事故と救助活動状況～



岐阜県警察本部

目 次

第 1	水難事故の発生状況	
1	概況 -----	1
2	過去 10 年間の発生状況 -----	2
3	月別発生状況 -----	3
4	場所別発生状況 -----	4
5	態様別発生状況 -----	5
6	曜日別発生状況 -----	6
7	原因別発生状況 -----	6
8	年齢別発生状況 -----	7
9	子ども（中学生以下）の水難事故発生状況 -----	8
10	高齢者（65歳以上）の水難事故発生状況 -----	9
11	居住地別事故者数 -----	10
第 2	水難救助活動の状況	
1	出動状況 -----	10
2	救助事例 -----	11
3	水難救助訓練実施状況 -----	11
4	小型船舶操縦士の養成 -----	12
第 3	その他	
1	水上バイク等の事故防止対策 -----	12
2	水難事故防止広報活動 -----	13

表 紙 写 真

揖斐川町（揖斐川）における警察・消防合同による水難救助訓練
（平成30年6月撮影）

第1 水難事故の発生状況

1 概況

[平成30年中の岐阜県内における水難事故の発生状況]

発生27件（前年比－6件）、事故者33人（前年比－5人）

[事故者の内訳]

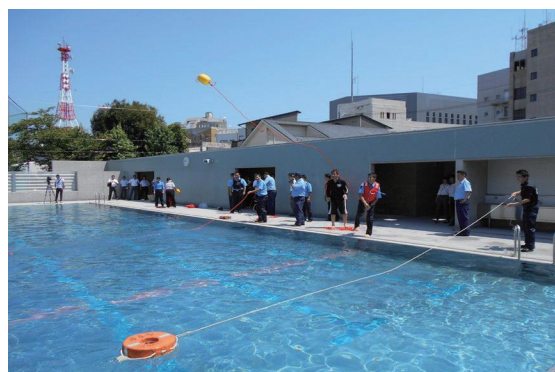
- 死亡 15人（前年比－1人）
- 行方不明 1人（前年比＋1人）
- 負傷 2人（前年比－3人）
- 無事救助 15人（前年比－2人）

[主な特徴]

- 前年に比べ発生件数・事故者数がともに減少
- 発生件数全体の約52%（14件）が7月～8月の2ヶ月間に集中
- 発生件数全体の約89%（24件）が河川で発生、うち約29%（7件）が長良川で発生
- 魚釣り・魚取り中の事故が最多（14件、前年比－3件）
- 高齢者（65歳以上）の事故が全体の約半数を占める
- 子ども（中学生以下）の事故が、発生件数・事故者数ともに、記録が残る昭和50年以降最も低い数値となる

[水難事故の発生状況(前年比)]

区分 年別	発生件数 (件)	事故者数(人)					
		死亡	行方不明	救出救助			
				重傷	軽傷	無事救助	
平成30年	27	33	15	1	2	0	15
平成29年	33	38	16	0	5	0	17
増減	－6	－5	－1	＋1	－3	±0	－2



地域警察官による水難救助訓練

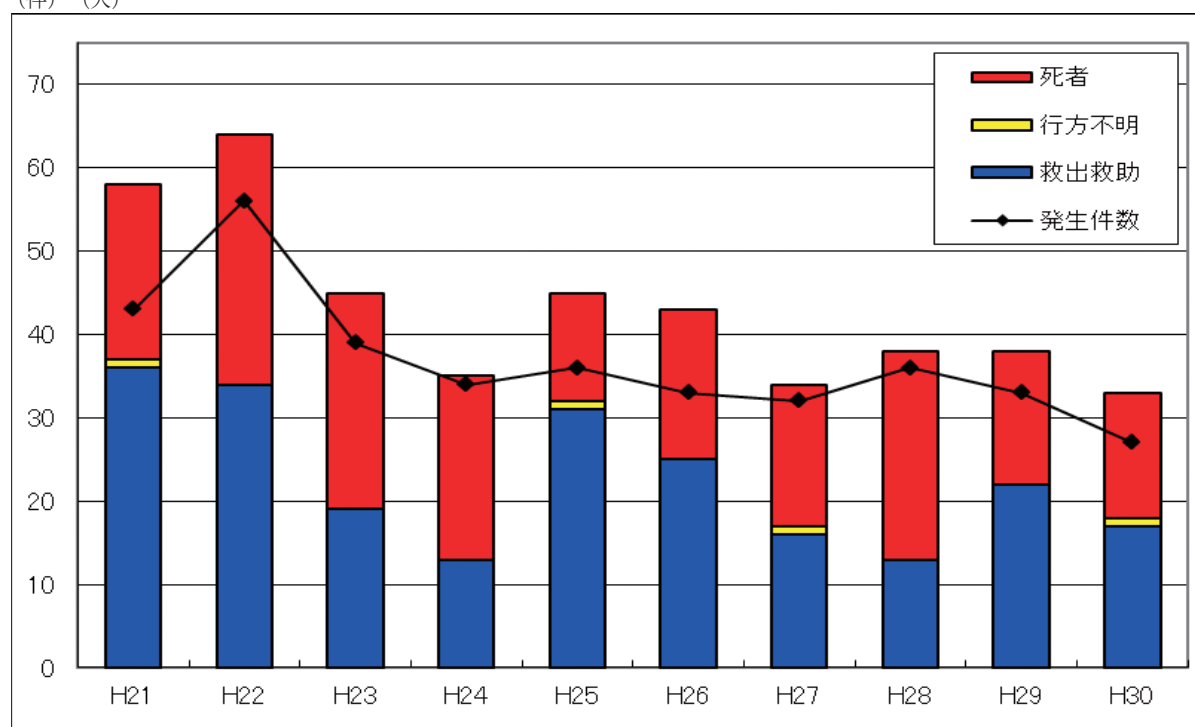
2 過去10年間の発生状況

- 前年に比べ、発生件数・事故者数とも減少し、過去10年間で最も低い数値となった。

[過去10年間の発生状況]

区分 年別	発生件数 (件)	事故者数(人)			
		死亡	行方不明	救出救助	
平成21年	43	58	21	1	36
平成22年	56	64	30		34
平成23年	39	45	26		19
平成24年	34	35	22		13
平成25年	36	45	13	1	31
平成26年	33	43	18		25
平成27年	32	34	17	1	16
平成28年	36	38	25		13
平成29年	33	38	16		22
平成30年	27	33	15	1	17

(件) (人)



3 月別発生状況

○ 7月～8月の2ヶ月間の発生が、14件（前年比－2件）で全体の約52%を占めている。

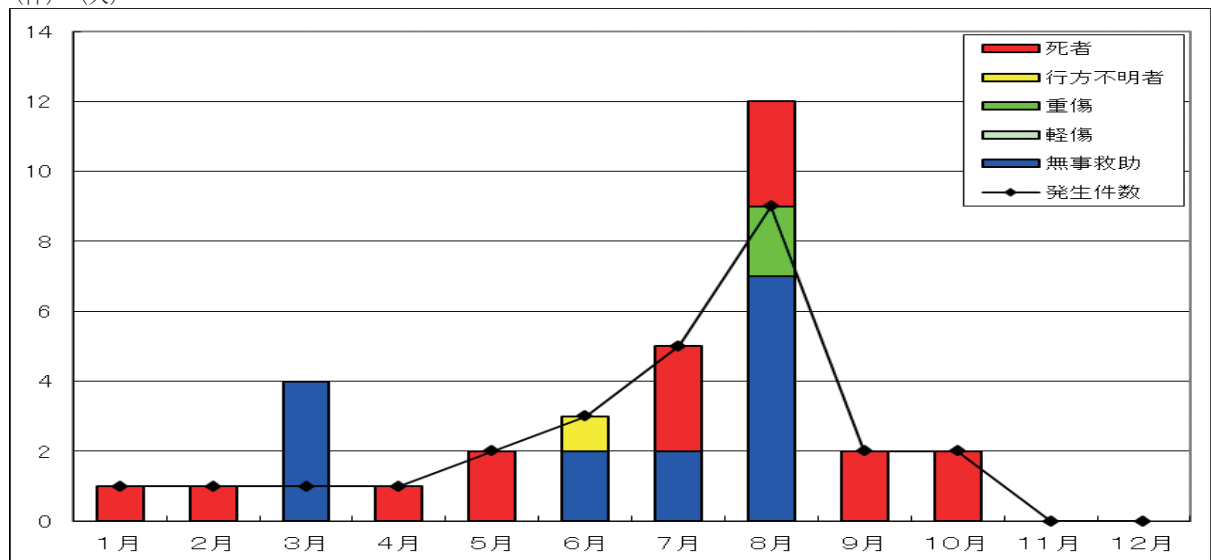
事故者数は17人（前年比±0人）で、内訳は、死亡6人（前年比＋1人）、行方不明0人（前年比±0人）、救出救助11人（前年比－1人）であった。

○ 前年に比べ、夏期シーズン（7月～8月）後の9月の発生が、2件（前年比－9件）2人（前年比－13人）と大幅に減少した。

[月別発生状況]

区分 月別	発生件数 (件)	事故者数(人)					
		死亡	行方不明	救出救助			
				重傷	軽傷	無事救助	
1月	1	1	1				
2月	1	1	1				
3月	1	4					4
4月	1	1	1				
5月	2	2	2				
6月	3	3		1			2
7月	5	5	3				2
8月	9	12	3		2		7
9月	2	2	2				
10月	2	2	2				
11月							
12月							
合計	27	33	15	1	2		15

(件) (人)



4 場所別発生状況

○ 河川での事故が最も多く、24件（前年比－6件）発生し、全体の約89%を占めている。

事故者数は30人（前年比－5人）で、内訳は、死亡12人（前年比－3人）、行方不明1人（前年比＋1人）、救出救助17人（前年比－3人）であった。

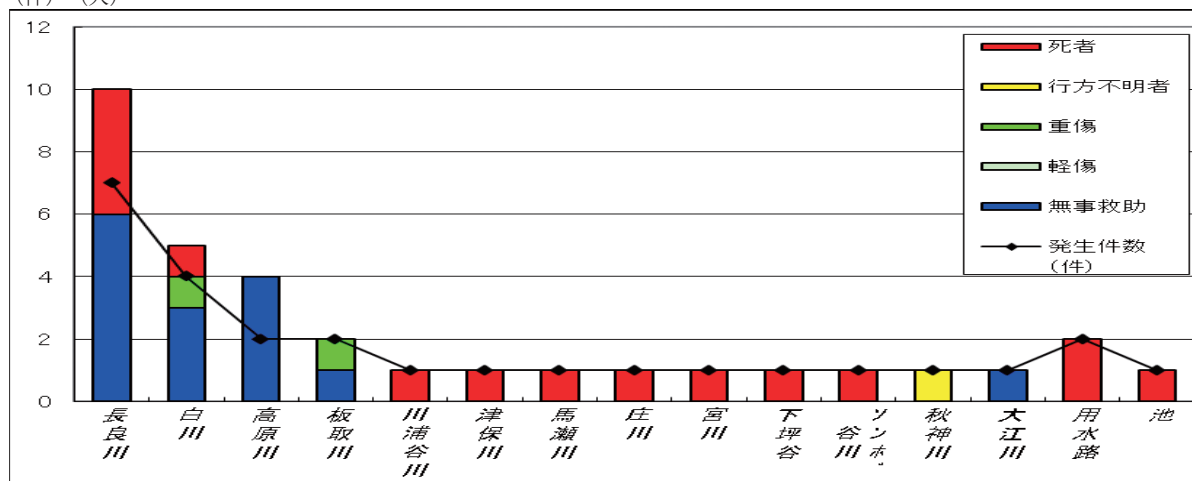
○ 河川別では、長良川での発生が最も多く、7件（前年比－2件）発生し、河川全体の約29%を占めている。

事故者数は10人（前年比±0人）で、内訳は、死亡4人（前年比＋2人）、行方不明0人（前年比±0人）、救出救助6人（前年比－2人）であった。

[場所別発生状況]

場所別	区分	発生件数 (件)	事故者数(人)					
			死亡	行方不明	救出救助			
					重傷	軽傷	無事救助	
河川		24	30	12	1	2		15
長良川		7	10	4				6
白川		4	5	1		1		3
高原川		2	4					4
板取川		2	2			1		1
川浦谷川		1	1	1				
津保川		1	1	1				
馬瀬川		1	1	1				
庄川		1	1	1				
宮川		1	1	1				
下坪谷		1	1	1				
ソホ谷川		1	1	1				
秋神川		1	1		1			
大江川		1	1					1
用水路		2	2	2				
池		1	1	1				
合計		27	33	15	1	2		15

(件) (人)



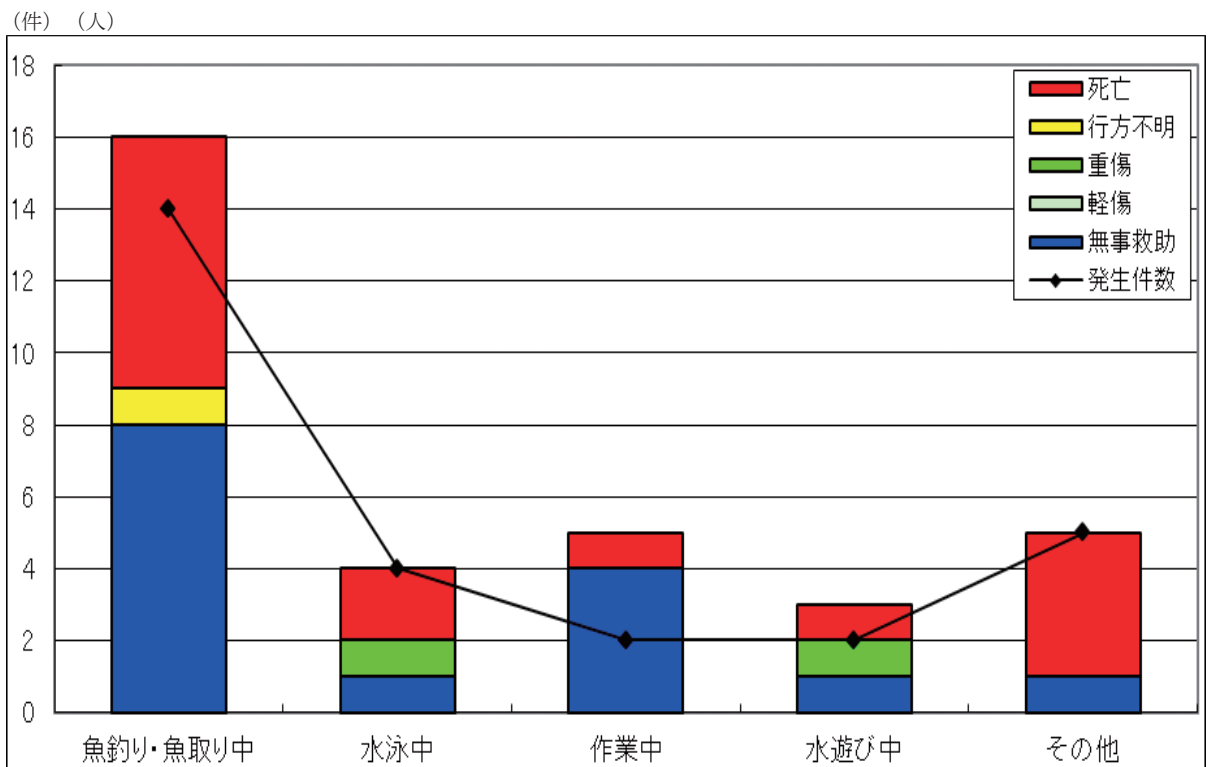
5 態様別発生状況

- 魚釣り・魚取り中の事故が最も多く、14件（前年比－3件）発生し、全体の約52%を占めている。

事故者数は16人（前年比－2人）で、内訳は、死亡7人（前年比－2人）、行方不明1人（前年比＋1人）、救出救助8人（前年比－1人）であった。

[態様別発生状況]

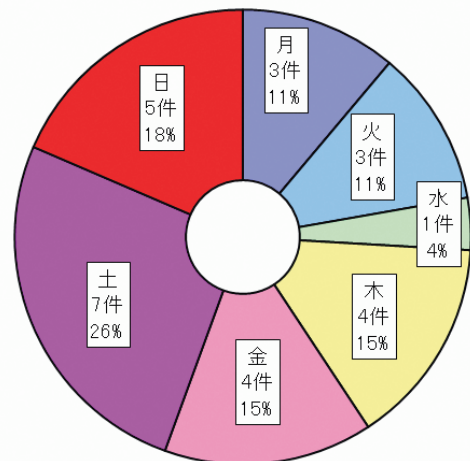
区分 態様別	発生件数 (件)	事故者数(人)					
		死亡	行方不明	救出救助			
				重傷	軽傷	無事救助	
魚釣り・魚取り中	14	16	7	1			8
水泳中	4	4	2		1		1
作業中	2	5	1				4
水遊び中	2	3	1		1		1
その他	5	5	4				1
合計	27	33	15	1	2		15



6 曜日別発生状況

- 土曜日の発生が7件（前年比+1件）と最も多く、全体の約26%を占めている。

[曜日別発生状況]



7 原因別発生状況

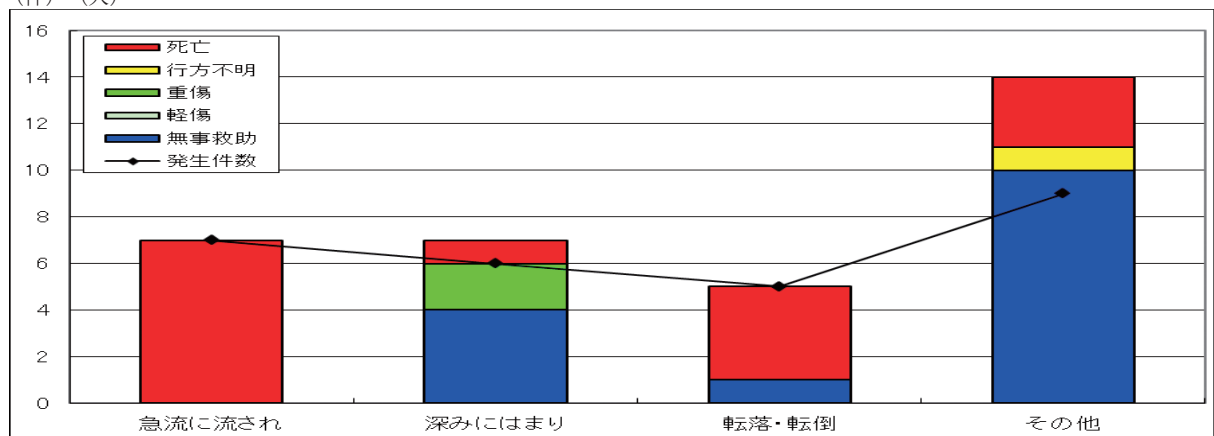
- 急流に流される事故の発生が、7件（前年比+2件）7人（前年比-1人）と最も多い。

事故者数の内訳は、死亡7人（前年比+6人）、行方不明0人（前年比±0人）、救出救助0人（前年比-7人）であった。

[原因別発生状況]

区分 原因別	発生件数 (件)	事故者数(人)					
		死亡	行方不明	救出救助			
				重傷	軽傷	無事救助	
急流に流され	7	7	7				
深みにはまり	6	7	1	2			4
転落・転倒	5	5	4				1
その他	9	14	3	1			10
合計	27	33	15	1	2		15

(件) (人)



8 年齢別発生状況

- 65歳以上（高齢者）の事故が15人（前年比－2人）と最も多く、全体の約45%を占めている。

事故者数の内訳は、死亡8人（前年比－1人）、行方不明1人（前年比＋1人）、救出救助6人（前年比－2人）であった。

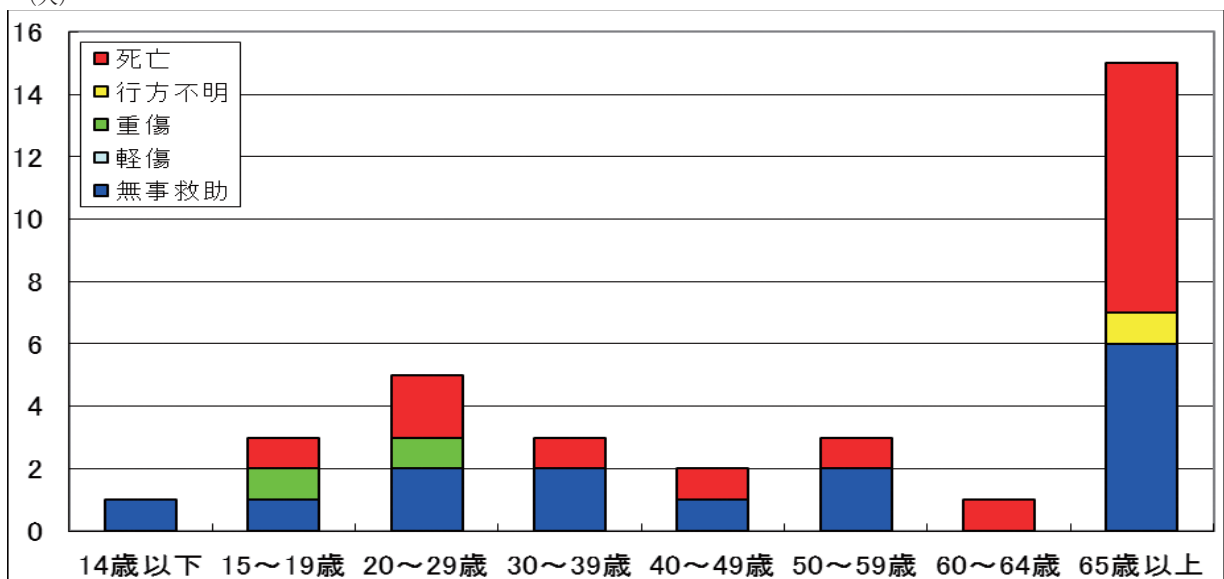
次いで、20～29歳の事故が5人（前年比－3人）と多く、全体の約15%を占めている。

事故者数の内訳は、死亡2人（前年比＋1人）、行方不明0人（前年比±0人）、救出救助3人（前年比－4人）であった。

[年齢別発生状況]

区 分 年 齢 別	事 故 者 数 (人)					
		死亡	行方不明	救出救助		
				重傷	軽傷	無事救助
14歳以下	1					1
15～19歳	3	1		1		1
20～29歳	5	2		1		2
30～39歳	3	1				2
40～49歳	2	1				1
50～59歳	3	1				2
60～64歳	1	1				
65歳以上	15	8	1			6
合 計	33	15	1	2		15

(人)



9 子ども（中学生以下）の水難事故発生状況

- 子ども（中学生以下）の事故の発生が、1件（前年比－3件）1人（前年比－3人）で、発生件数、事故者数ともに減少した。
- 発生件数・事故者数とも、記録が残る昭和50年以降最も低い数値となった。

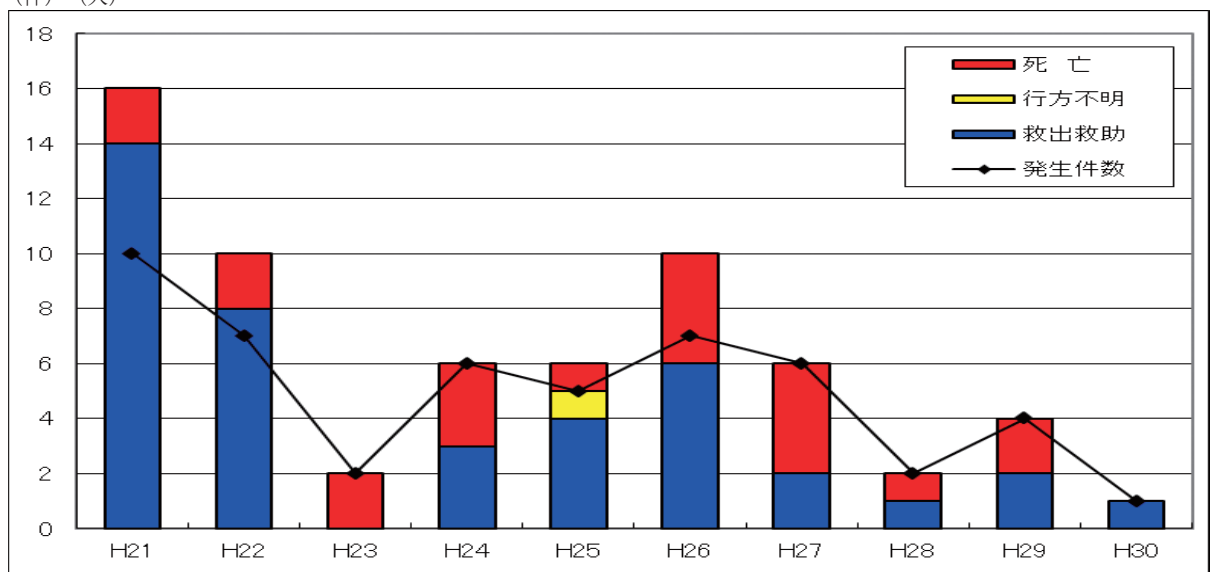
[子ども（中学生以下）の態様別水難事故発生状況]

態様別	区分	発生件数 (件)	事故者数(人)		
			死亡	行方不明	救出救助
魚取り中		1	1		1
合計		1	1		1

[過去10年間における子供（中学生以下）の水難事故発生状況]

年別	区分	発生件数 (件)	事故者数(人)		
			死亡	行方不明	救出救助
平成21年		10	16	2	14
平成22年		7	10	2	8
平成23年		2	2	2	
平成24年		6	6	3	3
平成25年		5	6	1	4
平成26年		7	10	4	6
平成27年		6	6	4	2
平成28年		2	2	1	1
平成29年		4	4	2	2
平成30年		1	1		1

(件) (人)



10 高齢者（65歳以上）の水難事故発生状況

○ 高齢者（65歳以上）の事故の発生が、13件（前年比－4件）15人（前年比－2人）で、発生件数、事故者数ともに減少した。

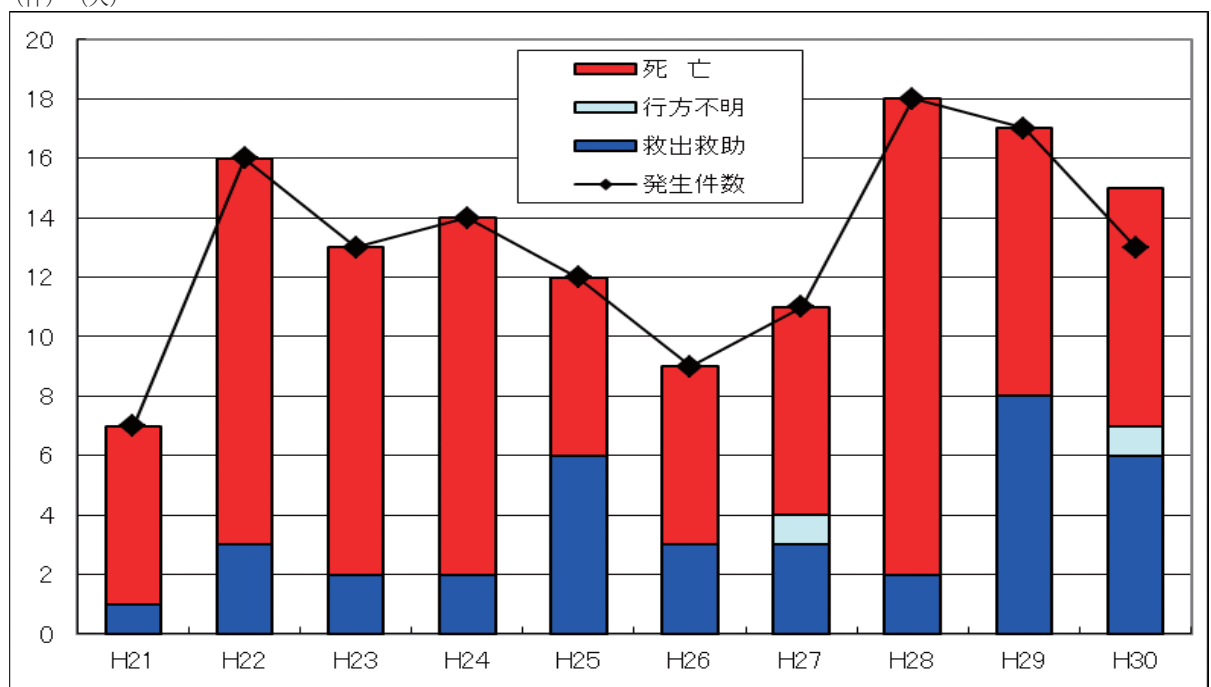
事故者数の内訳は、死亡8人（前年比－1人）、行方不明1人（前年比＋1人）、救出救助6人（前年比－2人）であった。

○ 事故態様については、13件中、10件が魚釣り・魚取り中の事故であった。

[過去10年間における高齢者（65歳以上）の水難事故発生状況]

年 別 区 分	発生件数 (件)	事 故 者 数 (人)		
		死 亡	行方不明	救出救助
平成21年	7	7	6	1
平成22年	16	16	13	3
平成23年	13	13	11	2
平成24年	14	14	12	2
平成25年	12	12	6	6
平成26年	9	9	6	3
平成27年	11	11	7	1
平成28年	18	18	16	2
平成29年	17	17	9	8
平成30年	13	15	8	1

(件) (人)



11 居住地別事故者数

- 事故者を居住地別にみると、県内居住者が15人（前年比－8人）と最も多く、次いで愛知県居住者が9人（前年比－4人）、静岡県居住者が4人（前年比＋4人）、富山県居住者が2人（前年比＋1人）であった。

[居住地別事故者数]

区 分 県 別	事 故 者 数 (人)					
		死者	行方不明	救出救助		
				重傷	軽傷	無事救助
岐 阜 県	15	8	1			6
愛 知 県	9	2		2		5
静 岡 県	4	1				3
富 山 県	2	2				
東 京 都	1	1				
茨 城 県	1	1				
山 梨 県	1					1
合 計	33	15	1	2		15

第2 水難救助活動の状況

1 出動状況

- 水難救助活動に、警察官が延べ301人、消防署(団)員が延べ374人出動した。
 ○ 県警及び県防災のヘリコプターが12件の事故に対し延べ13回、警察・消防等の舟艇が6件の事故に対し延べ10回出動した。

区 分 年 別	発生件数 (件)	出動状況 (人)		ヘリ出動		舟艇出動	
		警察官	消 防	件数	回数	件数	回数
平成30年	27	301	374	12	13	6	10
平成29年	33	494	750	13	16	6	22
増 減	－6	－193	－376	－1	－3	±0	－12

2 救助事例

日 時	場 所	状 況
8月11日(土)	白川町 白川	男児が溺れている状況に、付近に居合わせた兄が気づき、他の遊泳客とともに岸に引き上げ、母親が心肺蘇生を施し救助したもの。
8月22日(水)	関市 板取川	男子高校生が遊泳中に溺れている状況に、付近に居合わせた別グループの男性3人が気づき、連携して川底から引き上げ、心肺蘇生を施し救助したもの。

3 水難救助訓練実施状況

- 県内には、長良川、木曾川、揖斐川の三大河川をはじめ、ため池や農業用水などが数多く点在している。

機動隊及び各警察署では、水難事故に対して迅速かつ的確な救助活動を行うため、独自又は消防機関等と合同で水難救助訓練を実施した。



装備資機材取扱訓練



舟艇組立訓練



消防機関との合同水難救助訓練



アクアラング訓練

4 小型船舶操縦士の養成

- 水難事故の発生時において、舟艇を活用した水難救助活動を迅速的確に実施するため、水難救助用の小型船舶が配備されている警察署や機動隊の警察官を対象に「二級小型船舶操縦士免許講習」を受講させている。



舟艇操縦訓練

第3 その他

1 水上バイク等の事故防止対策

- レジャーの多様化、アウトドアスポーツの普及により、河川の利用環境は変化してきており、遊泳者や釣り人等の第三者を巻き込んだレジャー事故の発生を防止するため、関係機関・団体と連携し、広報啓発用看板の設置や河川のパトロールを実施するなどの活動を推進した。
- 平成30年中、水上バイクなどによる事故が4件発生し、5人が死傷した。

【事故概要】

- ・ 8月14日（火）岐阜市内の長良川において、水上バイクがけん引する浮具が消波ブロックに衝突。浮具に乗っていた女性1人が死亡、男性1人が負傷した。
- ・ 8月26日（日）岐阜市内の長良川において、川の浅瀬で水上バイクが座礁し転倒。水上バイクを運転していた男性1人が負傷した。
- ・ 8月26日（日）加茂郡八百津町地内の丸山ダムにおいて、水上バイクがけん引するウェイクボードが岩に衝突。ウェイクボードに乗っていた男性1人が負傷した。
- ・ 10月20日（土）羽島市内の木曾川において、プレジャーボートがけん引するウェイクボードが着水に失敗。ウェイクボードに乗っていた男性1人が負傷した。

[過去5年間における水上バイク等の事故発生状況]

区分 年 別	発生件数 (件)	事 故 者 総 数 (人)			
		死者	負傷	救出救助	
平成26年	3	4	4		
平成27年	0	0			
平成28年	1	4	2	2	
平成29年	1	1		1	
平成30年	4	5	1	4	

2 水難事故防止広報活動

- 県下の警察署では、7～8月の夏期に、関係機関と連携し、河川などの危険箇所に対する安全点検やパトロールを行い、遊泳者、水上バイク利用者、釣り人などに対する事故防止広報や安全指導を行った。

また、交番・駐在所が発行するミニ広報紙や、テレビ、ラジオなどのメディアを利用した広報啓発活動を展開した。

- 岐阜中・岐阜北警察署では、夏期期間中、長良川河川敷において、NPO法人長良川環境レンジャー協会員らと連携し、長良川のより安全で快適な河川利用を図るため、河川利用者に対し、マナー向上のための広報啓発活動を行った。



河川利用者に対する広報（長良川）

- 岐阜羽島警察署では、夏期期間中、羽島市内の木曾川河川敷において、木曾川上流河川事務所職員らと連携し、水上バイク等の安全利用やマナー向上のため、パトロール及び広報啓発活動を行った。



水上バイク利用者に対する広報
（木曾川）

- 関警察署では、夏期期間中、長良川及び板取川の河川敷において、遊泳客や鮎釣り客らに対し、水難事故防止を呼びかけるチラシを配付するなどし、広報啓発活動を行った。

- 加茂警察署では、6月16日（鮎釣り解禁日）、加茂郡内の白川河川敷において、水難事故防止を呼びかけるチラシを鮎釣り客らに配付するなどし、広報啓発活動を行った。

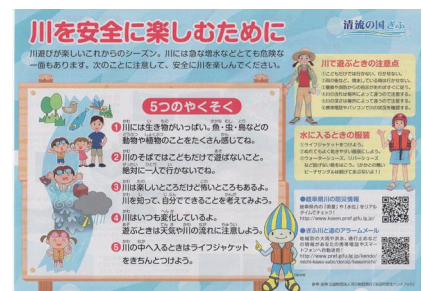


水難事故防止広報（長良川）

- 飛騨警察署では、6月25日（鮎釣り解禁日）、飛騨市内の宮川河川敷において、水難事故防止を呼びかけるチラシを鮎釣り客らに配付するなどし、広報啓発活動を行った。



鮎釣り客に対する広報（白川）



広報チラシ（岐阜県河川課作成）